

令和5年度 四万十市まち・ひと・しごと創生会議 議事概要

- 日 時 令和6年3月28日(木) 14:00~16:30
- 場 所 四万十市役所本庁舎6階 第1・第2委員会室
- 出席者 委員14名のうち出席11名
推進本部員13名、事務局5名

○配布資料

会議次第

資料1：四万十市まち・ひと・しごと創生会議資料

資料2：四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理シート

資料3：四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 一覧

<結果概要>

1 開会

- ・会議成立報告

2 会長及び副会長の選任

- ・事務局から会長に岡村委員、副会長に高屋委員を提案し、承認される

3 前回会議の振り返り

- ・事務局説明

前回の創生会議で提出された主な意見等について説明

【質疑等】

特になし

4 議事

(1) 四万十市の人口及び産業状況等について

- ・事務局説明

資料1の1~4ページをもとに、四万十市の人口及び産業状況等について説明

【質疑等】

特になし

(2) 第2期総合戦略の進捗状況について

- ・基本目標1：事務局説明

資料1の5~9ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標1に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

A 委員： ケーキ屋をやっているがイチゴが欲しい時期に近場で手に入らず、高値で購入することになっている。高値で売れる時に出荷できるように生産してはどうか。

G 委員： 12月の苺は、農家にとっても大変。その時に取れるようには、どうしてもなら

ない。

本当に取り組んでそれができればやっていただきたい。

地元のものを使っていききたいという、市内農家がいっぱいいる。ぜひそういう方向で指導も含め進めていただきたい。

また、米ナスについては中村地域でもやってもらいたい。

中村と西土佐、両方が相互関係を持てるような体制づくりも必要ではないか。

B 委員： 幡多公設卸売市場の経営が厳しいという話を聞いている。具体的な状況を教えてください。

また、今後の予定として市場への地域おこし協力隊配置を考えているかも聞きたい。

観光商工課： 市場については、すでに築 50 年ほどの年数が経っていますが、取扱金額は、最高の時が平成の初めぐらいで 40 億円ぐらいあったと記憶しています。それが今 4 分の 1 の 10 億円程度。

かなり減ってきていて、理由は、やはり人口の減少とか、大店舗が入ってきて、小さな商店さん、八百屋さんとかもなくなって、買受人さんとかもかなり少なくなっています。

一番多かった時に比べたら半分ぐらい、200 人ぐらいの買受人の数になっていて、かなり売上高も減って厳しい状況になっています。

令和 2 年ぐらいに市場の経営戦略を策定し、それぞれの役割や責任を決め、今進めているところで、その後、いろんな活動や取り組み等の手助けをしていただくために、市場の活性化としてそれをミッションとした協力隊を雇っていきたいと思っています。

今の市場の状況で、市内だけ、地産地消だけではなかなか難しい状況もあると思います。

一番は卸売り業者さんが、売り上げが立たずに、廃業されたということになると市場機能というのは果たせないで、まずは売上を上げて卸売事業者さんがしっかりと経営できていけるようなところを目指していかなければならないと思っています。

ふるさと納税とかは新たに始めて、その時に販売するような取り組みも始まっていますので、一緒に力を合わせて進めているところですので、よろしく願います。

B 委員： この市場の件に関して、大きいスーパーマーケットの取り扱いがないってところが一番大きいのかなと思って、こういうところでアプローチしていくということも一つあるのかなというふうに思いますが、その辺はいかがでしょうか。

観光商工課： 大事なところだと思いますので、地元の品を、地元の大きなスーパーに置いてもらうというところについても、何か取り組みができればと思っています。農家との繋がりの中で、各農家のいろんな地元の製品置いていますので、どういうふうに食い込んでいけるのかなというところが課題ではあると思っています

けども、そういうところも考えていきたいと思います。

- C 委員：先ほどの苺の関係、振興センターの方で、何か対応策ないか、すぐに答えが出るものではないのかもしれないが、指導できないかということで、私の方から投げかけをさせていただければと思います。

米ナスの取り組みは、市の方で連携等取り組むことができたなら、ぜひご検討いただければと思います。

それともう1つ、事業者等の情報発信時に四万十市内とか、幡多に向けた発信が多い。

広報誌とかもわかるが、もう少しインターネット、SNSを強く使って、もう少し遠くからできないかっていう部分もある。事業者だけではなく、行政も。

上手くSNSを使うことで、遠くから来ていただけるような事例もかなりあると思うので、もっと積極的に皆さんで使うようなことができればと思います。ぜひご検討の方、よろしく願いいたします。

- A 委員：苺の関係で、夏の苺の単価が高い。香川県や徳島県のちょっと標高の高いところで作っている。四万十市では気候的に無理かもしれませんが、高知県というような単位なら、適したようなところも、あるのではないかと思う。そういった高知県の新しいその産業という意味では、夏苺みたいなものも、非常に単価が高く売れるので、一緒に提案していただけたらなと思います。

- E 委員：以前、四万十川産の川のりについて学習する機会があった時に、教職員がまず研修をしなければということで、下田漁協さんの協力をいただいて、種付けとそれから収穫に至るまで、実際に現場に行って、学習をさせていただきました。実際に下田の子供たちは川に竹が刺さっているが、何をしているのか子供たちも私たちも知らない状況があった。

そこで初めて植物ではなくて、動物なんだっていうふうなことを学習して、非常に貴重な時間をいただいた。ただその辺りグラフで見ると、非常に厳しい状況が続いている。陸上養殖の推進で、下田地区の民間企業に養殖場の整備補助があるが、これについての情報提供というのは、今現在どうなっているか教えていただければと思います。

- 農林水産課：陸上養殖については、新聞等でも出ていますが、民間業者というのは、地元の加用物産さんが手がけておられます。

グラフにもあるように、近年の漁獲高、環境の影響もありますので、なかなか取れない状況が続いているということで、川で取るような養殖の部分も、研究検討はしていますけど、その他の選択肢の一つとして、陸上養殖ということで、下田地区の方、本年度、令和5年度にですね、加用物産さんが手を挙げまして、実施することとしております。

事前に整備する前に、試験栽培等を行っております。

おそらく、うまくいくのではないかと思います。ちょっと予算の都合がありまして、整備自体は、令和6年度に整備をしまして、年間2トン程度を陸上養殖で生産するような予定となっております。それがうまくいきましたら、またいろいろ市場に出回るようなことになるとと思います。

表示の都合で、四万十川産ということにはできないが、四万十市産ということで、管理と提供ができるような形に、市も支援をさせていただいているところでございます。

会 長 : 前回の議事録のところでも商工業分野の話もあり、高知県の方でデジタル技術を活用して、商店街の分析をして、経営力を向上しようみたいな取り組みがある。県内全域なのか、商店街をモデルでやってみたいな話が出ていたので、そういうところもキャッチしていただいて、取り組みにつなげていただくと良いかなと思います。

苺に限らず、先ほどののりの話もそうですね。

物がなくて、高く買ってもらえるので、陸上養殖というところもある。

今、農業分野においても、多様な価値基準に応えられる農家さんを探してらっしゃるところもあるかなと思っています。

・基本目標2：事務局説明

資料1の10ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標2に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

F 委員 : 移住定住の促進ということで、Uターンを進めていくということですが、今おられる方、中高校生等にいずれ帰ってきてもらえるような四万十市のアピール等は、何かされているのでしょうか。

企画広報課 : 定住対策ということになるかと思いますが、現在市の取り組みとしまして教育委員会が行っているふるさと教育の方で、地域に対する誇り、愛着といったものを醸成するような取り組みをしています。

人口減少対策ということ考えた場合に、Uターン含めて定住していただく取り組みが、移住とあわせて、非常に重要になってこようかと思っておりますので、ふるさと教育に加えて、令和6年度から、シティープロモーション活動を充実させようと、企画広報課の係の再編をしまして、シティープロモーション推進係というものを新設することとなっております。

そういった中で、地域へ定住していただけるように、小中学生だけでなく、大人の方に対しても、啓発していきたいと考えております。

F 委員 : 地元のいいところを地元の方は当たり前なので気付いていない。移住者の方はそのいいところを見出してきていただいていると思うので、移住者の方のお話

を中学生とか小学生とか高校生に、伝える取り組みもいいのではないか。

私は労働の人間なので、高校生を対応するが、幡多地域で年間大体 120 人ぐらいの生徒さんが就職する。その内の約半分程度の方が県外へ出ていく。県内では大体 50 人から 60 人ぐらいの人が残るが、そのうちの半分近くが高知市内近辺ということで、こちらの方に残られるのは 500～600 人の卒業生の中で、現実問題、50 人切るというようなことで、できる限り残っていただきたい。ただ企業さんの求人の方は 150 からそれ以上、ただ、なかなかやはり残る方っていうのが少ない。

Uターンということは、返ってくるっていうことなので、改めてよさを再発見するのであれば、できたら学生の中に再発見する機会を与えることはできないかと思っています。

G 委員： 地域おこし協力隊の事業が始まって定住を目標にしているということだが、定住率、どのくらいの人が定住したのか聞きたい。

企画広報課： これまで退任された方が 24 人。

そのうちの 12 人、ちょうど今のところ定住率で言えば 50%。これは協力隊導入した当初からの数字。最近ではその定住率も上がってきているところです。

I 委員： 最近この移住の方は減ってきたような感じがする。それよりも関係交流人口みたいな感じで増えているというか、マニアックな、特に海外経験者みたいな人がすごく魅力を感じていると思います。

東洋町の方が、特定地域づくり事業をしているが、仕事と移住というのをかけ合わせていて好評。やはり仕事と家というふうなところが必要ということで、今まで協力隊が候補だったが地域づくり事業もいいという話をいただきました。

会 長： 西土佐の方でも、特定地域づくり事業の話がでているのでしょうか。

複数の企業さんとか事業者さんでお仕事をする人材を確保する感じですか。

地域企画課： 特定地域づくり事業の状況を報告させていただきます。

令和 4 年 11 月にアンケートをとって、令和 5 年の 10 月に事業者が集まってもらって意見を聞かせていただきました。

その中で事務局等を請負ってくれる方を探しているが、なかなか手を挙げてくれる方がいない状況で、外部から雇うのか、中でもう一度調整するのか、そういうことを、取り組みながら進めていかないといけない。

住宅の関係も一つネックとなっているが市の住宅等も活用しながら進めていきたいと考えています。

C 委員： この特別地域づくり、県内でも、最初に、東洋町、馬路村でできています。こ

れを追いかけてやろうとしている市町村、いくつかありますが、それをコーディネートする方、その人材を探すのに非常に苦労している。一番大きいのはやっぱり人材問題というふうに聞いている。ある意味協同組合という会社を作るため、1年間通じて何人かの、雇用をキープしていかないといけない。仕事をいかに見つけていくか、それから給料をどのように決めていくか等、いろいろ課題があります。

東洋町さんでは、すでに雇って夏、ホテルの仕事と、柑橘の収穫作業というふうに組み合わせてやっているということもありますので、そういった事例を紹介しながら、県内各地で取り組みをできないか話をさせていただきます。そういった事例を踏まえながら、今、西土佐の方と一緒に進めさせていただいてるところでございます。

また、一緒に県としても進めていければと思っていますので、引き続き支援していきたいと思っています。

D 委員 : 移住の問題の中で新しい人の流れを作るところで、今の幡多福祉保健所管内の市町村では、特に介護人材不足というところが非常に大きな課題として出てきております。

その中で市町村によっては介護人材に特化したような形で、呼び込みを行っているような流れもあります。

また、外国人人材の確保という点でも、人手が足りない市町村の方は、いろいろな取り組みで人材を確保されているというような実情があるところです。

その中で、やはり I ターンで来てくださる人たちに選んでもらえるような市町村づくりが大事というふうに感じております。

その部分は介護人材不足に取り組んでいる、市町村の担当課だけではなく、まちづくりのところも一緒に関わってやっていくことで、また行ってみたいというふうに思っていたのかなというふうに思いながら、今日の話聞いておりました。

会 長 : この基本目標 2 は、民間不動産を利用する移住者への支援ですとか、地域づくりですとか、何か新しいことがチャレンジされているという印象を受けています。

こういった新しいチャレンジができるというのはすごく大事ですし、そのためにやっぱり地域の寛容な姿勢もいると思います。

それから移住について、移住者は減ってくるのではないかなと直感的に思います。

首都圏でも、人手不足が顕著になってきていて、いろんな手厚い支援がある中で、非常に厳しい状況を迎えてくるのではないかな。一方で地方に進出したい企業というのが増えてくると思うので、BtoC をやるのではなくて、BtoB 的な移住も、戦略としてはあるのではないかな。四万十市は非常に特徴だったところがあ

と思うので、ご検討いただければと思います。

・基本目標3：事務局説明

資料1の11ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標3に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

H 委員： 県の婚活サポーターと、市の違いですが、市は登録した他の人の内容が見えにくいので、工夫をしたらどうか。

あと不妊治療やDV 被害者等の相談窓口の拡充ができていいと思う。

健康推進課： 市の方で不妊治療専門の相談窓口は現状ございません。

また特定不妊治療になると、なかなか細かな治療内容となり、そこまでの相談内容を受入れる体制ではないというのが、実情です。

その中で、当医療機関の方とどう連携を取るのか。どんな形がとれるのか考えていきたいと思います。DV 等の窓口というのは市民人権課に構えてはおりますが、気軽に相談ができるかといったところはまだ十分じゃないかと思います。所管課とも改善に向けて話していけたらと思います。

会 長： この分野ハイリスクアプローチといますか、量で見えない質的な重要性とか、どう寄り添っていかってところの態度が、非常に重要なところもあると思います。KPI だけにこだわらず、質的なことも重視していただきながら、寄り添っていただけるといいかなと思います。

よろしくをお願いします。

副 会 長： DV のことにも、一応関係すると思いますが、子連れの出ターンっていうのが、西土佐地域でも、年に何件かあって、私自身もそういう、こちらに出ターンを経験していますが、その時に住む家と、仕事の情報が欲しい。

そういったことへのアプローチとか、情報につなげていけるような取り組みを四万十市でできたらいいと思う。

会 長： 整備しているはずの情報なのに、適切なタイミング、場所で、接点がつくれないっていう課題なのかなと思います。

一つ一つの分野だけで解決できるフェーズを超えてきているのではないかなという印象もあり、横の連携という言葉になるけども、どうやって連携するんだっていう、具体的なところは正直なかなかわからないのですが、そこが非常に重要になってきているというところだと思います。

大都市に比べてやっぱり四万十市さんのような、コンパクトなまちは人との繋がりがあってというのがまだまだおありだと思いますので、存分にそういうところを

發揮していただくことが、課題解決の近道ではないかと思えます。

・基本目標4：事務局説明

資料1の12ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標4に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

副会長： 相互交流のため、飲みに行ける時間に西土佐中村間のバスがあればいいと思う。

企画広報課： 令和6年度に公共交通計画を見直す予定です。

地域の特性や住民のニーズ、持続性といった三つのバランスをうまくとりながら、今後計画策定の中で検討していきたいと思えます。

I 委員： 黒尊川流域の集落支援をしているが、高齢化率が高く買い物に行く交通の部分が課題となっています。今回、皆でバスを借りて割り勘で行ってみようという実験をしました。来年度も年に4回、3か月に1回やるようにしている。市の補助金云々ではなく自分たちでできることを試している。

出会いサポート事業のところで17時までなので相談できないといった話。若い人に話したら当たり前という話になると思う。若い人達の話聞いて取り入れたらいいのではないか。

企画広報課： 今現在の取り組みとしては、若い世代に絞ったような動きは市の中にはありません。

非常に貴重な意見だと思いますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思えます。

H 委員： あったかふれあいセンターのような予防の施設が四万十市には足りないのではないか。今後増やす予定はないのか。

高齢者支援課： 現在、市内にあったかふれあいセンターは西土佐に1か所。中村に2か所あります。

拠点をふやすのか或いは参加しやすいサテライトのような形とするのか、人材不足等の課題もあるため、そういった課題も含めて検討させていただきたいと思えます。

会長： 以前は2次交通の問題は暮らしの問題だったが、暮らしだけでなく他にも影響している。観光客の足の問題等、顕著に実感できるようになってきた。

そこをどうやっていくのかですね。

高知市内のバス会社さんなんかの話、記事なんかも出ていますが、実際にお客さんは戻ってきているけど、バス事業者さんの経営負担が増えているという、全然違う矛盾した構造があって、先ほどの話で、コミュニティーで何とかしよ

うという工夫を考えているという話があって、どういう役割を誰が担っていくのかっていうところも変わってくるのではないかという気がします。

・デジタル田園都市国家構想交付金を活用した取り組み：事務局説明

資料2の最終ページをもとに、デジタル田園都市国家構想交付金を活用した取り組みについて進捗説明

【質疑等】

会 長 : デジ田交付金の KPI についてでございましたか。

KPI の方で市公式ホームページアクセス数が 140 万から 210 万で 250 万。

こんなに伸びます。

大体 10% ぐらいは伸びると思いますが、KPI がすごい倍率で伸びているなと思って。

ちょっと気になりました。

ただ、もし延ばすのであればライブカメラ設置とかで簡単に伸ばせます。

カメラ導入のお金はかかりますけど。

デジタル田園都市国家構想交付金、今、手厚くサポートも出ていると思いますし、デジタル化というところで、まちひとしごとの非常に重要なキーワードだと思いますので、積極的に活用いただければと思います。

(3) 第2期総合戦略の改訂（案）について：事務局説明

資料1の13ページをもとに、第2期四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（案）について説明

【質疑等】

特になし

3 その他

【質疑等】

A 委員 : 情報発信ということでまだ具体的なやり方というのは、これからみたいなお話があったので、ぜひインフルエンサーとか、ユーチューバーとか、もともと発信する人数が多い人を、使った方がいいのではないかというご提案ですが、YouTube、ホームページといった形で情報発信をさせていただいているのですが、なかなか再生回数っていうのは伸びているように見えないので、そもそも見ていただく人が多い方に案件としてお願いして、目に触れる機会を増やすのも、一つの提案ではないかなと思います。

あとその下は協力隊ですよ。

実際に起業されて定住されている方もいる。

こちらに来て起業したいとか、もともとこういう業種で終わったら、こちらで定住して働きたいという思いがある人をつないでいただいて、定住にスムーズにつないでいただけるような、早い段階で機会を作るというのも大事だと思います。市の職員さんで、起業のお手伝いというのはなかなか無理と思うので、実際に働いている業界の方を、信頼のおける方を早めにつないでいただくのもいいのではないかなと。

企画広報課： 情報発信のやり方提案いただきました。

自分たち考えの思いもつかなかったことを、提案いただきまして、ネットワークをもっと活用しなければならないと考えておりましたが、例えば、ふるさと応援団制度、それから各同窓会の全国組織がございますし、観光大使等、そういうところは今後、うまく活用しなければならないという思いがありましたけれども、先ほどご提案いただいたことについても参考にさせていただきたいと思えます。

それから協力隊ですけれども、隊員活動の中で、例えばこういう仕事に、従事したいとか、意向があれば、そこに向けての支援を行っております。

例えばそれに向けた資格が必要であれば、資格取得にかかる経費を支援。退任された後の起業に向けての準備等について支援をさせていただきます。

それからもう一つの新しい動きとしては、委託型の、協力隊、そういうものも来年度から実施予定です。

具体には委嘱は市が行いますが、森林組合さんの方に協力隊の支援とかすべて委託しましての実施を考えております。

会 長： 先ほどカメラのことを言いましたけど平野のカメラですね、もうスーパーキラーコンテンツです。

で、それを別の方がしているというのは、いわゆる一番儲かるところを人にお願しているという構図。ちょっともったいないなって。

そういったことを中に持っていくっていうのは、結構大事なのかもしれないなと思えます。

C 委員： 3年度、地域産業振興監としていろいろお話をさせていただきました。コロナの余波が残る中3年4年と続いて、やっと、いろんな動きが見えてきたところで残念ですが、今月末で退職となります。

後任ですが、人権男女共同参画課長の岡田というものが参ります。

おそらくまた、この席に参加させていただくことになろうかと思えます。

人口減少対策に力を入れて、元気な未来創造戦略ということで、名前を変えて、来年、令和6年度から、計画を作っているところでございます。

産業振興だけでなく、子育て等いろいろな分野が地域の総力というか底力が必要になると思えますので、行政だけではなくて、地域の方々や事業者の方々、みんなが協力していかないと、なかなか人口減少を止めることは難しいと思えますので引き続きご協力いただければと思います。

我々も支援ができればと思っていますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

副会長： 前回の会議より着実にというか、職員の皆さんが、頑張ってくださいているおかげだと思いますが、例えば婚活とかも、実際にマッチングで、結婚したりとか、最近の婚活の内容がいいので、成果が出てきていると思います。他の分野も壮大な話で、なかなか大変だと思いますが、私も一市民として、いろいろ協力できることがあれば、していきたいと思いますので、また次回に向けて考えたいと思います。

またよろしくお願いいたします。

会 長： 以上をもちまして、令和5年度四万十市まちひとしごと創生会議を終了いたします長時間に渡り、ありがとうございました。

4 閉会 16:30